

透析患者は透析導入後に尿量が減少する。長期透析患者になると無尿となる患者も多い。とはいえ、腎、尿管、膀胱、前立腺、睪丸などにさまざまな泌尿器科疾患が発症する。

尿量が少ないため、膀胱炎、膀胱腫瘍、前立腺腫瘍などの発見が遅れてしまうこともある。肉眼的血尿が出た場合、採尿検査による尿細胞診が必要であるが、十分な尿が採取できない場合は膀胱洗浄をして尿採取する必要がある場合もある。腎癌の発症が透析患者に多いが、画像診断は容易ではない。CTやMRIを併用して診断するが、そこには専門的知識が必要である。

尿路感染症も発症することが多い。少ない尿が膀胱内に滞留するので、膿尿が膀胱内に充満するような膀胱炎もみられる。また、多

発性嚢胞腎症例では嚢胞感染が発症すると難治性である。時には、嚢胞ドレナージも必要となる。糖尿病透析患者には壊死性筋膜炎に相当するフルニエ壊疽が、外陰部に発症することがある。緊急的に外科、泌尿器科的治療が必要なこともある。

以上のようにさまざまな泌尿器科疾患が透析患者にみられるが、透析医のみではなかなか対応できない。泌尿器科医との連携治療が必須である。この特集では透析患者の泌尿器科疾患を包括的に取り上げ、診断と治療について改めて深掘りすることを目指した。日常診療に役立つ内容であることを願っている。

最後に、執筆いただいた泌尿器科医の先生方に深謝申し上げる。

(西 慎一)

2025年(Vol.41)特集のご案内

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| No.① 透析患者の糖尿病治療—2025 | No.7 外来透析患者の定期検査+結果の評価と対応〔増刊号〕 |
| No.② 透析患者の皮膚を守る カラーでみる | No.8 透析患者の心臓病のすべて—インターベンションを中心に |
| No.③ 透析患者の骨粗鬆症と骨折を理解する | No.9 透析患者のカリウム管理 |
| No.④ 長期透析の現況・課題と対策 | |
| No.⑤ 多職種連携による在宅透析医療—コメディカルの役割 | (既刊は○) |
| No.⑥ 透析患者の泌尿器科疾患に対応する—泌尿器科専門医との連携 | |

臨牀透析® Vol.41 No.6

© 2025年6月10日発行

定価：2,860円

(本体2,600円+税10%)

- ・2025年 年間購読料(増刊号含む13冊,税込)
冊子版 39,050円
電子版(個人のみ) 39,050円
冊子版+電子版(個人のみ) 44,550円
(詳しくはホームページをご覧ください)
- ・年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込みください。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp URL https://www.nmckk.jp

印刷所 シナノ印刷株式会社

・Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2025, Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・JCOPY<出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所／株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 電話(03)3814-8541